

Rén bù zhī ér bù yùn bú yì jūn zǐ hū
人不知而不愠，不亦君子乎

(ひと)知らずして(うら)みず、(ま)た君子ならずや)〈学而第一〉

うえだ あつお
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

「人知らずして愠みず、亦た君子ならずや」。人が認めてくれなくても、恨みに思わない。それもまた君子というものではないか。これは『論語』の最初の章に出てくる言葉です。「愠みず」とは、ムカついたりイラ立ったりしないということです。「いきどおらず」と訓読することもあります。自分の考えや能力を人に認めてもらいたいとは、誰しもが思うことです。しかし人はいつも自分を認めてくれるとは限らない。むしろその逆の場合が多い、というのが現実です。こういう時、たいいてい人はムカついたりイラ立ったりします。その気持ちは十分理解できる。しかしこれでは君子として失格です。人から理解されなくても冷静でいられること、これもまた人の上に立つ者の条件の一つであると、孔子は考えていたようです。

また次のようにも言っています。「君子病无能焉。不病人之不已知也 (Jūn zǐ bìng wú néng yān. Bú bìng rén zhī bù jǐ zhī yě)」(君子は能くする無きを病う、人の己を知らざるを病えず)〈衛霊公第十五〉。君子たる者、自分の力の足りなさを気に病むものだ。人に認められないことを気に病むものではない、と。ここに出てくる「病う」とは、気に病む、という意味です。「能くする無きを病う」とは、ただ何もしないで自分の無能を嘆くという意味ではありません。人の評価にこだわらず、ひたすら自分の目標に向かって努力する、という意味が込められています。これは孔子の生き方そのものにもつながるものです。

更に次のようにも言っています。「不患人之不已知。患不知人也 (Bú huàn rén zhī bù jǐ zhī.

Huàn bù zhī rén yě)」(人の己を知らざるを患えず。人を知らざるを患う)〈学而第一〉。人が自分を認めてくれないからといって、それを気に病むことはない。むしろ自分が人を知らないことを気に病め、と。「患う」とは、やはり気に病む、という意味です。相手から理解されないことを気に病むよりも、こちらから積極的に相手を理解しよう心掛けること。その方が大事だということでもあります。

これに似た文句は『論語』の中にしばしば出てきます。「樊迟问仁。子曰：“爱人”。问知。子曰：“知人”(Fán chí wèn rén. Zǐ yuē：“Ài rén”。Wèn zhī. Zǐ yuē：“Zhī rén”)(樊迟仁を問う。子曰く、「人を愛す」と。知を問う。子曰く、「人を知る」と)〈顔淵第十二〉。ある時、弟子の樊迟が孔子に「仁とは何ですか」と訊ねた時、孔子は「人を愛することだ」と答えました。ここで言う「人を愛す」とは、人を大事にするという意味です。更に「知とは何ですか」と訊ねると、即座に「人を知ることだ」と答えています。

孔子は春秋時代という混迷の中を生きただけでなく、そしてこの混迷を解くカギを、武力ではなく、文化の力に求めた人でした。当時、孔子の真意を理解できる人は、ごく少数に限られていました。しかし多くの弟子たちがその教えを後世に伝え、今もそれは生き続けています。混迷の世を生きる時、何よりも大切なことは、人に知られるよりも人を知ること、人に愛されるよりも人を愛すること、ということでしょうか。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)